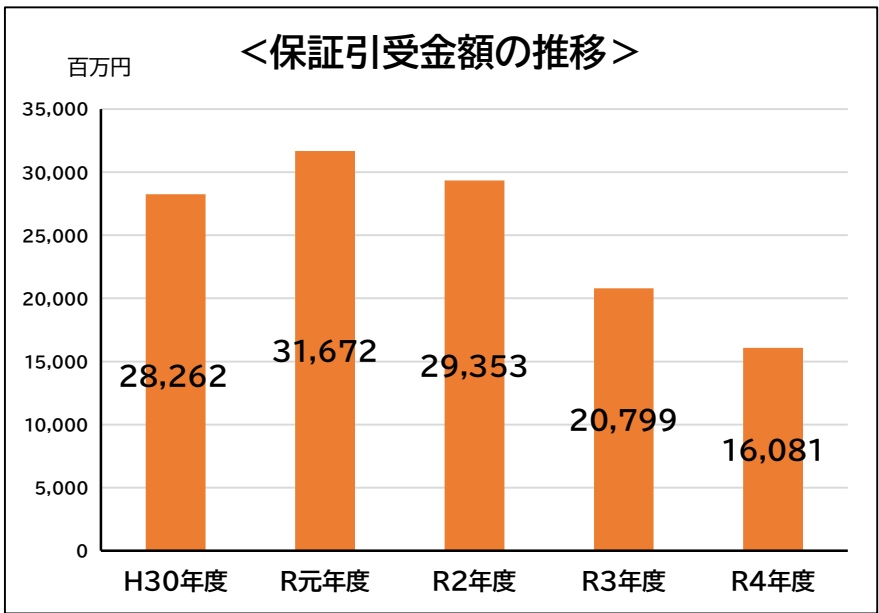


## 令和4年度の林業信用保証業務実績の概況

# 1. 保証引受

- 令和4年度の保証引受額は、161億円(前年度比77.3%)であり、この5年間を見ると、令和元年度をピークに減少傾向にある。
- 保証引受の減少は、①木材不足・価格高騰(いわゆるウッドショック)による国産材の需要増加に伴い、林業・木材産業者の財務状況が改善し完済に至ったものがあること、②80%保証への移行が令和4年9月末までに進んだこと、③経営悪化により保証更新できず期日延長したものがあることが主な要因と考えられる。
- 今後、資金を必要とする林業者等に、適切に信用保証サービスが提供できるよう積極的な制度普及に部門一体となって取り組んでいく。



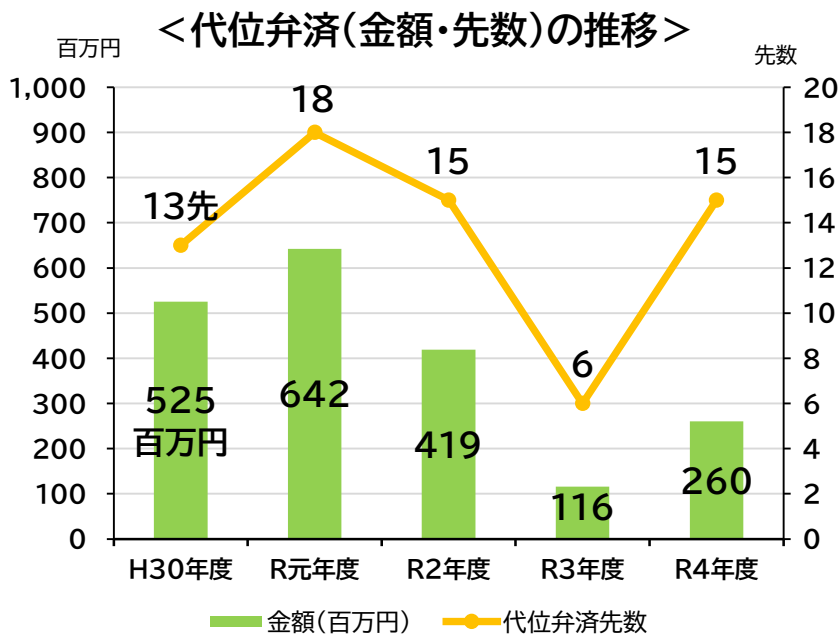
＜保証引受減少の要因＞  
(令和4年度と令和3年度との比較)

単位:億円

保証引受減少の要因	金額	構成比
財務状況が改善し完済に至った案件	17	36%
100%保証を80%保証に見直した案件	9	19%
経営悪化により保証が更新できず期日延長した案件	7	15%
その他(前年度に長期引受を行い、4年度に更新がないもの等)	14	30%
合計	47	100%

## 2. 代位弁済

- 令和4年度の代位弁済は、金額は260百万円(前年度比224.3%)、先数は15先(前年度比250%)となった。
- 代位弁済額は低位にあるものの、前年度と比較すると経営不振や人手不足等により増加している。
- 今後、
  - ① 全企業(中小企業)の業況判断指数が回復傾向にある一方で、木材・木製品製造業の業況判断指数は低下傾向であること
  - ② 政策金融公庫等の無利子・無担保融資の返済が本格化し、資金繰りが悪化する事業者が増加していること等を踏まえ、期中管理等を適切に行い、林業者等が事業継続できるよう、融資機関と連携し、条件変更等に柔軟に対応していく。



### <代位弁済事由の内訳>

(単位:先数)

代位弁済事由	経営不振	うちコロナ関連保証利用先	人手不足による売上減	訴訟トラブル	経営者の死亡・体調不良等	合計
R3年度	2	0	0	1	3	6
R4年度	8	3	2	1	4	15

### <中小企業の業況判断指数(DI)の推移>

区分	2022年		2023年	
	3月	6月	3月	6月
全企業	▲6	▲2	3	5
木材・木製品	▲3	▲3	▲15	▲24

(注)  
 ・日銀短観(日本銀行の全国企業短期経済観測調査/2023年7月3日公表)より作成  
 ・DI:「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたもの

### <倒産の状況>

(単位:件数)

区分	2022年			2023年	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
全企業	1,556	1,585	1,783	1,956	2,086
木材・木製品製造業	3	2	3	8	8

(注) 東京商工リサーチ「倒産月報」より作成

# 3. 回収金

- 令和4年度の回収金は、142百万円(前年度比106.0%)となった。近年、代位弁済額が低位にあること、求償権残高・先数が減少傾向にあることから、今後とも、回収金実績も低位で推移することが見込まれる。
- 近年の回収金実績の内訳をみると、年度によってばらつきが見られ、求償権先の担保価値や債務者・保証人の資力等に左右されるところが大きい。

